

環境に配慮した農業農村整備の推進と住民参加による環境資源管理  
The Promotion of farmland reform which considered and The  
Environmental resource management by residents participation

岩 田 昭  
Akira Iwata

### 1. 西鬼怒川地区の概要

河内町は栃木県のほぼ中央に位置し、首都東京から100キロメートル、県都宇都宮市に隣接する人口約35,000人、面積47.72haの町です。宇都宮市の中心部から約8kmという近さから、急速に都市化が進んでいます。西鬼怒川地区は町の北東部に位置し、シマドジョウ、スナヤツメ、カジカ等の魚類、ゲンゴロウ、ホタル等の水生昆虫、ミズニラ、バイカモ等の水生植物といった希少な水生生物が生息する自然豊かな水田地帯です。特に、水田の間を流れる湧水の多い谷川(やがわ)には、水源から九郷半川の合流点までの3kmの間に、平地では珍しいヤマメが自生し、スナヤツメやウグイ、ホトケドジョウ、タガメなどがいきいきと泳いでいます。

### 2. 農村自然環境整備事業(総合型)

この西鬼怒川地区で、平成2年から土地改良事業が始まりました。土地改良事業は、不正型な農地を集約して整形化し、大型機械が利用できるようにし、また、水路を機能的に配置し水が効率的に利用できるようにすることによって、生産性を上げ、労働力の省力化を図るものです。生産性の向上とともに、高齢化の進む農家の作業の負担も軽くします。しかし、水路がコンクリートのU字溝になるなど効率化を追求することで、多くの水生動植物は減少し、あるいは全滅してしまう恐れがあります。そこで、栃木県と河内町は生態系を保存しながら農業基盤整備を行うために、平成7年に水田地帯における生態系の保全と復元を目標とした「農村自然環境整備事業(総合型)」を導入しました。魚が自由に水田と水路を行き来できるように、段差のある水路に魚道を作るなどの水のネットワークと、鳥や昆虫の憩いの場所として、農村公園や緑地を配置する緑のネットワークの形成を図ったのです。

### 3. 住民組織の立上げ

自然に配慮する整備は、土地改良事業による合理性や利便性を犠牲にする部分が多分にあることから、土地改良区組合員はもとより、地元住民の理解と協力抜きには進められません。また、事業完成後の自然保護や施設の管理の面からも住民参加は必要不可欠です。そこで、町は、住民参加を促すため、広報誌、パンフレット等により広く住民に事業計画を公開し、地元説明会や講演会などによる啓発を行い、地元自治会、土地改良区、既存のボランティアグループ等の各種団体を中心に「西鬼怒の川に親しむ会」(以下「親しむ会」という。)というワーキンググループを立ち上げました。

### 4. 住民参加による農村環境の保全

親しむ会の当初の活動は、河川の付け替え工事によって影響を受ける魚や水生植物の救出作戦や、ドジョウや小魚が水田と河川を行き来できるように設置された生態系保全水路

(通称ドジョウ水路)の整備を行うなど、土地改良事業によって失われる自然の保全と再生が主なものでしたが、白沢公園などの水に親しむ施設が完成してからは、都市農村住民交流事業として田植えや稲刈り等の農業体験を通して農村の自然のすばらしさを子供たちに伝える「田んぼの学校」を開校し、また西鬼怒川地区の活動を多くの人に周知するため自然環境フォーラムを企画運営するなど、自然保護と農村の伝統文化の継承の大切さを啓発する団体に成長しました。

## 西鬼怒川地区の推進体制

### 西鬼怒川エコビレッジ推進委員会

事業の実施・運営に係る各種課題を協議・意思決定に関する機関。

会長 1名 委員 7名 顧問 4名

(設立 平成8年5月29日)

#### アドバイザーグループ

専門的な課題に具体的な指導助言を行う学識経験者の集団  
宇都宮大学  
農業環境技術研究所  
自然環境研究センター  
農村開発企画委員会  
栃木県水産試験場  
日本グラウンドワーク協会

#### 運営委員会

エコビレッジ委員会の方針・計画等を実行に移すための委員会でAG及びWGの代表と事務局等で構成。  
(設立平成13年6月6日)

#### ワーキンググループ

○地域住民の意思を反映する集団として、既存のボランティアグループ等の各種団体により設立。平成17年にNPO法人の認可を受ける。グラウンドワーク活動の中心的な集団  
特定非営利活動法人  
グラウンドワーク西鬼怒  
(旧西鬼怒の川に親しむ会)  
○西鬼怒川地区の自然環境保全のために河内町職員とOBによって組織される。  
河内町職員自然環境研究会

#### 事務局

河内町産業経済課  
河内農業振興事務所

## 5. 今後の課題

農村自然環境整備事業による農村の自然の復元と保全の工事は、平成17年度で完了しました。西鬼怒川地区の農村の自然の保全と復元は、住民、行政(県、町)、大学関係者の良好な関係のもと成果をあげてきましたが、事業完了後の農村の自然環境の保全は、住民主体になり、親しむ会の活動は、これまで以上に重要になってきます。このため、親しむ会は、平成17年6月にNPO法人の認証を受け「特定非営利活動法人グラウンドワーク西鬼怒」として新たな一歩を踏み出しました。